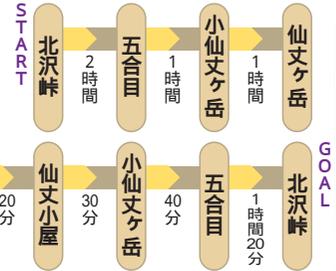


東駒ヶ岳/仙丈ヶ岳 登山ガイド

B 仙丈ヶ岳

花と展望のたおやかな稜線へ

コース 歩行時間＝6時間50分



①北沢峠のトイレ横の登山口 ②小仙丈ヶ岳頂上。展望は抜群だ ③気持ちのよい稜線を仙丈ヶ岳へ ④頂上へ最後の登り ⑤仙丈小屋へと下る ⑥頂上でご来光を見る ⑦仙丈小屋上主稜線からの仙丈ヶ岳 円内 ハクサンイチゲ

コースガイド

北沢峠の仙丈ヶ岳登山口から登山道に入って原生林の中の急傾斜を登る。五合目(大滝頭)で馬ノ背ヒュッテ方面への道を分け、なおも登り詰める。2700m付近が森林限界でハイマツ帯となる。以後開けた尾根上をたどっていく。やがて着

いた小仙丈ヶ岳からは南アルプス北部の山々の大展望が得られる。また高山植物が数多く咲く別天地だ。岩稜の藪沢カール縁を回ると仙丈ヶ岳山頂に着く。展望は360度、下山は仙丈小屋経由で往路をたどり、北沢峠に戻る。

DATA

交通アクセス
JR飯田線・伊那北駅からJRバスで戸台口。長谷村村営バスに乗り換え北沢峠へ。JRバス☎0265-73-7171

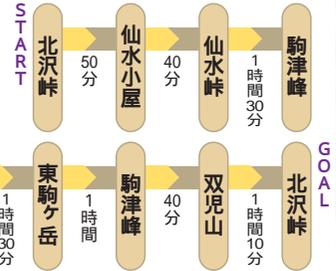
宿泊施設
仙流荘 黒川 ☎0265-98-2312、長衛荘 ☎0265-98-3130以下同(北沢峠) 仙丈小屋 藪沢カール底 藪沢小屋 五合目上)

サブコース
五合目から右へ斜面を巻くように馬ノ背へ向かうルートは花が豊富。また、北沢峠手前の大平山荘から藪沢沿いに登る藪沢新道は最短時間で登頂ができ、かつ花の宝庫。だが両ルートとも残雪が多いときは避けたい。

A 東駒ヶ岳

そびえ立つ南ア北部の盟主へ

コース 歩行時間＝7時間20分



①北沢峠から林道を下る ②長衛小屋そばの竹沢長衛翁レリーフ ③仙水峠への登り ④直登ルート ⑤大展望の東駒ヶ岳頂上 ⑥巻道ルート 上 頂上直下の登り 円内 頂上の祠

コースガイド

北沢峠でバスを降り林道を山梨側の下って左手の山道に入る。長衛小屋前の丸木橋を渡り、溪流に沿って登り始める。仙水小屋までの道は岩や丸木橋など変化に富む。小屋を出、摩利支天の岩峰を望むと仙水峠に着く。ここから駒津峠めざして登る。灌木帯からハイマツ帯になると駒津峠だ。東駒ヶ岳をはじめ南ア北部の山々、そして富士山の大展望が得られ

る。さらに双児山からの道を合わせ、岩尾根を下り気味に進むと、六方石に着く。駒ヶ岳への最後のりとなり、直登と巻道に分かれる。登りに直登、下りに巻道を使おう。慎重に岩稜を登りつめると白い砂礫の斜面となって頂上に到着する。展望を充分楽しんだら巻道を下降する。駒津峠からは双児山、不動岩を経て北沢峠まで下り続ける。

DATA

交通アクセス
JR飯田線・伊那北駅からJRバスで戸台口。長谷村村営バスに乗り換え北沢峠へ。JRバス☎0265-73-7171

宿泊施設
仙流荘 黒川 ☎0265-98-2312、長衛荘 北沢峠 ☎0265-98-3130

山 域 を 彩 る 花 々



ツバメオモト [ユリ科] 5～7月 山地帯上部から亜高山帯の林内に生える多年草

コイワカガミ [イワウメ科] 5～7月 高山帯の草地、礫地、ハイマツの林縁に生える

ハクサンチドリ [ラン科] 5～8月 亜～高山帯の草地に生える多年草。白花もある

ミヤマキンバイ [バラ科] 7～8月 高山帯の砂礫地、草地、雪田の周りに生える多年草

シロバナエリソウ [ユリ科] 4～6月 山地帯から高山帯の湿った林下に生える多年草

オヤマノエンドウ [マメ科] 5～8月 中部山岳地帯の草地や砂礫地に生える小型の多年草

イワウメ [イワウメ科] 7～8月 中部以北の高山帯の岩壁や礫地に生える常緑小低木

ハクサンイチゲ [キンポウゲ科] 5～8月 中部山岳地帯の草地に生える高さ20～50cmの多年草

キバナシャクナゲ [ツツジ科] 5～8月 高山帯の風衝地やハイマツの林縁などに生える

キバナノコマノツメ [スミレ科] 5～8月 亜～高山帯の湿った草地、溪流沿い岩間などに生える

ミネズオウ [ツツジ科] 5～7月 高山帯の岩礫地や岩壁に生える常緑小低木

イワベンケイ [ベンケイソウ科] 7～8月 風当たりの強い岩礫地に生える雌雄異株の多年草